杏林大学医学部　履修系統図

2018（平成30年）入学生カリキュラム

医療と教養

科学と医療

高校時代に学習した生物や化学などの基礎科学の知識を発展させ、医学物理、代謝生化学、生体化学、医学統計学など、医学にかかわる科学の基礎知識を学習する。
同時に、医師に求められる基本的姿勢および知識を学ぶ。とくに医療科学では、「医療と文化」などの講義や「OSCE患者体験」を通じて、社会が医師に求める姿勢・態度、そして患者から期待される医師像や医療のあり方を学習する。また、「病院実習」などを通して、先輩医師と交流しながら、医師のキャリプランを考える。
それと共に「地域と大学」では、三鷹市の現状、我が国における医療システム・福祉システム等に関する講義・グループ学習・演習等を行う。
　チュートリアル教育は、「与えられた課題からその背後に存在する問題、追求すべき問題点を見出し、必要な情報・資料を検索しつつ、解決に至る道筋を自ら見出す能力を育成する」ことを目的とした教育である。将来、医療の現場で様々な問題に遭遇した際、日々進歩する膨大な医学知識の中から適切な情報を抽出し、これを解決してゆくための方策を学ぶ。
　医療化学Bでは、患者と医師関係の在り方などを考えるために、医療情報、コミュニケーション、カウンセリングなどについて学習する。

医学の基礎

人体の機能　　異常の発生と制御　　人体の構造

分子生物学と肉眼解剖学の講義により、人体の構造の理解や生命の根源にせまる学習することは、医学の基本的知識習得の第一歩を踏み出すことになる。
解剖学（肉眼解剖学及び組織解剖学）では、すべての医学の基礎となる人体の構造を学ぶ。統合生理学・細胞生理学・細胞生物学・感染症・免疫学などの基礎医学科目を学び、同時に実習が行われる。これらの科目は『人体の構造と機能』を理解する上できわめて重要なものである。
薬理学、病理学などの基礎医学科目が配置されている。これらの科目は、人体の構造と機能の上に、さらに「病態」の要素が加わったものであり、その知識や考え方は、医師として患者の病態機序や薬剤の作用機序などを考えるための基礎となる。さらに社会と医学を結ぶ科目として衛生学を学習する。
公衆衛生学の講義が行われ、既習の医学知識の社会集団への応用と医学知識の整理であり、重要な講義である。

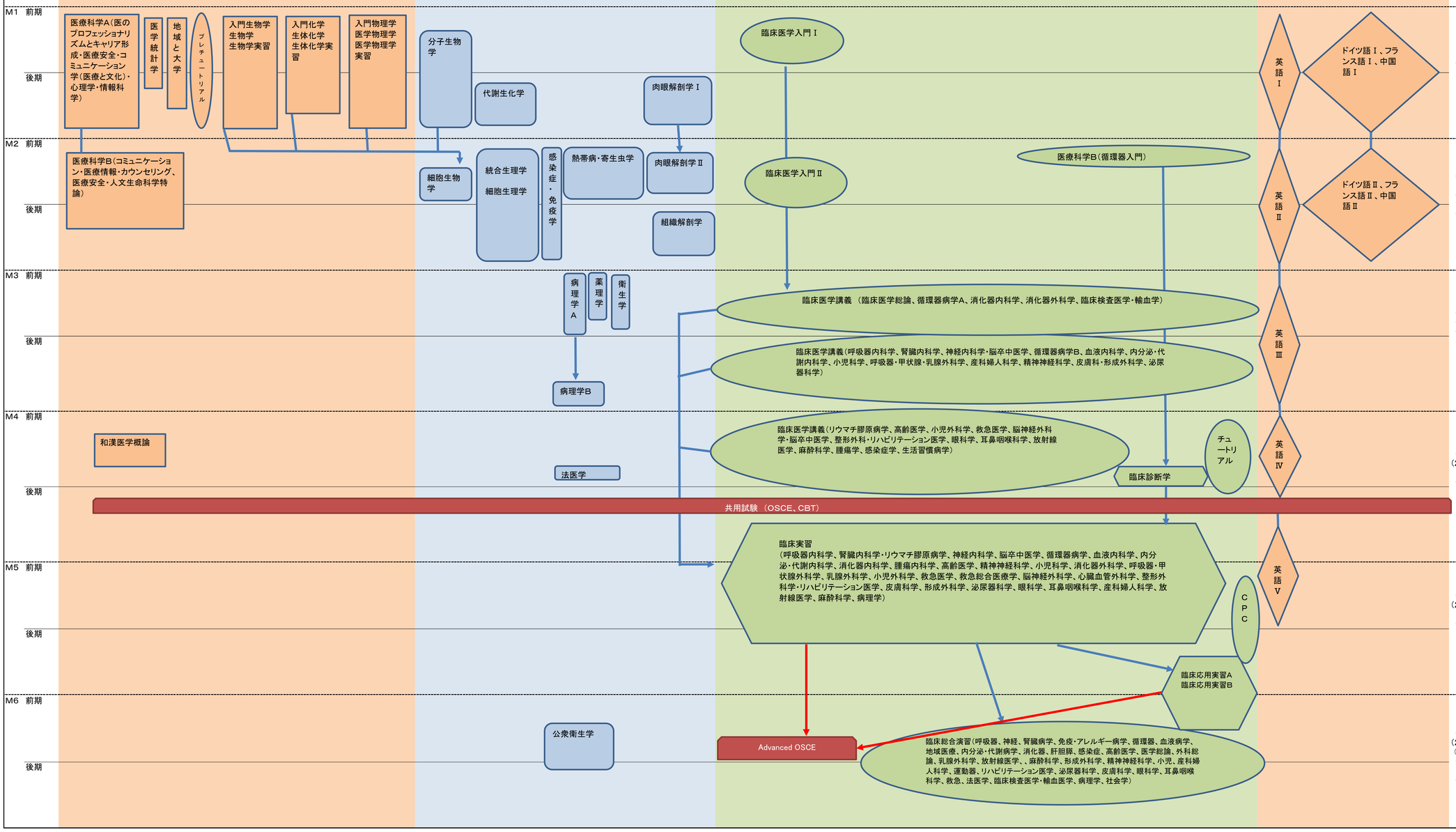
臨床医学講義　／　臨床実習

臨床医学講義は全部で30科目で構成され、前期及び後期講義の終了時に筆記試験があり、修得度が評価される。臨床医学に関する系統的な知識の修得は、第4学年後半から開始される臨床実習に際して不可欠である。
それぞれの科目で教科書が指定されており、各講義に関連する教科書のページが講義予定表に記載されている。講義スケジュールは原則として Ⅰ 限から Ⅳ限までに納めたので、放課後には是非教科書を読んで講義の復習をしておきたい（学習すべき項目のすべてを講義で説明することはできないので自主学習は必須である）。
臨床実習に備え、診断能力と基本的な臨床技能を身につけるための臨床診断学講義および実習が行われる。実習は小グループで、各テーマをローテートしていく形で行われる。また、臨床医学的な内容を課題としたチュートリアル教育が行われる。
臨床実習に先だって、これまでに学んだ基礎、臨床、社会医学の知識と基本的な臨床技能に関して、全国的に行われる共用試験（コンピュータ試験CBTと基本的臨床技能試験OSCE）による評価を受ける。共用試験に合格することは進級の要件である。
臨床実習は、これまで修得した医学知識を、実地臨床に応用する能力の育成が目的であり、ほぼ2年間にわたって小グループで各科を順次廻って行われる。ベッドサイドで患者さんに接するほか、症例カンファランス、回診、手術見学、救急車同乗など多彩な学習の場が用意されている。疾病の理解とともに、実際の症例に関するさまざまな問題への対応も要求される。その成否はひとえに、各学生が明確な問題意識を以て自主的かつ積極的に学習に取組むか否かにかかっている。医学に対する謙虚な姿勢を保ち、かつ誠実怠りなく学習すべきである。
　その後、6年間の医学知識の総まとめとなる「臨床総合演習」が行われる。

医療と教養

外国語

　英語によるコミュニケーション能力は、医師はもとより、国際化の進んだ現代の社会人には不可欠である。その重要性に鑑み、学生を能力別に30人前後の小グループに分け、それぞれの実力に合った演習型の講義を行うこととしている。第3学年では、少人数のグループで英文医学論文の講読の演習を行うスモールグループ学習が行われる。第4学年でもひき続いて少人数のグループで英文医学論文の講読演習が行われ、さらに高度な英語能力の修得を目指す。なお第1～4学年に引き続き、さらに高度な英語力を身につけたいと希望する学生、国外でのクリニカルクラークシップ実習を希望する学生等を対象にした「英語・医学英語Ⅴ」を第5学年に選択科目として設定している。



関連する到達目標

（1）-①②④
（2）-①
（3）-①②③④
（4）-①
（5）-①
（6）-①

（1）-①②③④
（2）-①③
（3）-①②③④
（4）-①
（5）-①②③④
（6）-①

（1）-①②③④
（2）-②③④⑤
（3）-①②③④
（4）-①
（5）-①②
（6）-①

（1）-①②③④
（2）-②③④⑤⑥
⑦⑧⑨⑩⑪
（3）-①②③④
（4）-①②
（5）-①②③
（6）-①

（1）-①②③④
（2）-②③④⑤⑥
⑦⑧⑨⑩⑪
（3）-①②③④
（4）-①②
（5）-①②③
（6）-①

（1）-①②③④
（2）-①②③④⑤
⑥⑦⑧⑨⑩⑪
（3）-①②③④
（4）-①②
（5）-①②③④

杏林大学医学部教育における到達目標

教育理念と学位授与の方針に基づき、杏林大学医学部の学生は、卒業までに以下の能力・態度を身につけることを目標とする。

（1）医師の社会的責任
①　医師・医学研究者としてふさわしい価値観を身につける。
②　医師・医学研究者に求められる倫理と法的責任を認識する。
③　安全な医療を行う姿勢を身につけ、そのために必要な知識、技能を修得する。
④　同僚や他の職種の人たちと協調する態度を身につける。

（2）医学知識と技能
① 人体の正常の構造と機能を理解する。
② 主要疾患の病態生理と自然歴を理解する。
③ 薬物治療の原則と、個々の薬物の作用を理解する。
④ 主要疾患の治療法を理解する。
⑤ 心理的、社会的側面を含む適切な病歴聴取が行える。
⑥ 基本的な身体診察が行える。
⑦ 基本的な心肺蘇生術（basic life support）が行える。
⑧ 病歴と身体診察の所見から問題点を抽出し、根拠（evidence）に基づく解決法を示すことができる。
⑨ 患者の問題解決のための人的資源、診断手段、治療手段、医療・保健施設、社会制度について理解する。
⑩ カンファランス、回診において適切な症例呈示が行える。
⑪ 適切な医療記録を作成するための基本的原理を理解する。

（3）問題解決能力
① 適切な情報源にアクセスして必要な情報を収集することができる。
② 様々な情報源から得られた情報に基づき、科学的思考によって問題解決を図る能力を身につける。
③ 批判的思考と研究的な態度を身につける。
④ 自律的で、適切な自己評価に基づいて学び続ける態度を身につける。

（4）コミュニケーション能力
① 患者、家族、同僚、他職種の人たちと良好な人間関係を築くための基本的なコミュニケーション能力を身につける。
② 患者、家族の文化的、宗教的、個人的背景に配慮して行動できる。

（5）医学・医療と地域・社会との関わり
① 健康状態に影響するライフスタイル、遺伝、人口統計、環境、社会、経済、心理、文化の各因子について理解する。
② わが国の医療・保健制度および医療経済について理解する。
③ 個人あるいは地域・職域において健康を維持し疾病を予防する方策を示すことができる。
④ 健康問題や疾病の予防について地球規模の視野に立って理解する。

（6）英語運用能力
① 診療・研究に必要な英語運用能力を身につける。